



順調に合同テストとシェイクダウンテストを終え スポーツランドSUGOでの開幕戦を迎える

◆合同テスト：3月11日（土）

10:00～11:00 / 13:00～14:00

3月11日（土）に今シーズンから新たに開幕する「GLOBAL MX-5 CUP」の合同テストが初戦の舞台となるスポーツランドSUGOで実施されました。

山野哲也選手と山野直也選手をドライバーとして起用し、シリーズ参戦するCABANA Racing（株式会社トップセレクション）は、哲也選手のドライブによって合同テストに参加しました。

合同テストは、午前と午後に各1時間ずつの計2時間を走行。参戦マシンのデリバリーが間に合わずオーガナイザーが用意するテスト車両での試走となりましたが、マシンの素性を確認することができセッティングの方向性も見え、順調に合同テストで予定していたプログラムを消化することができました。

初めてMX-5 CUPカーのステアリングを握ることもあり、合同テストでの目的はクルマの状態を認識が第一。そして、どのような方向性でセッティングを施せば良いかをチームでチェックすることです。そのため、最初の1時間は、参加車両の中で最多周回となる27周を走行。初走行で得た感覚を元にセッティングを調整し、午後のテストへ臨みました。

13時～スタートした2回目の走行では、クルマのフィーリングも向上し、走行12周目にはベストタイムとなる1分37秒412をマーク。順調にテストプログラムを消化し、マシンやタイヤへの理解度も深まり、セッティングの方向性を掴めました。

◆シェイクダウンテスト：3月29日（水）

アメリカから輸送されてきた参戦マシンが合同テスト後に届き、シェイクダウンを含めたテスト走行を富士スピードウェイにて実施。合同テストでは哲也選手のみでのドライビングでしたが、当日は直也選手も参加し、二人によってセットアップを煮詰めることになりました。

まずは、スポーツランドSUGOでの走行データを基に哲也選手がコクピットに座り走行をスタート。レンタルマシンで走行した合同テストとマシンのフィーリングに差はなく、シェイクダウンで懸念されていた初期トラブルもなく順調にテストは進みました。

直也選手にバトンを渡しテストは進行。以前、筑波サーキットでの試乗会でステアリングを握ったことのある直也選手は、参戦マシンに好感触を受けています。

4本の走行枠では、減衰力やプリロード、車高、スタビライザーの調整などを行ない、マシンの熟成も一段と進歩。タイヤ特性の理解度も増し、テストプログラムは終了しました。開幕戦へ向けて、手応えのあるテストとなり、万全の体制で臨むこととなります。

Driver: 山野哲也

合同テストでは、車両のジオメトリーや剛性、ハンドリングなど素性の良さは分かりました。しかし、ドライバーの望んでいる挙動ではなく、最適なセットアップを見つけ出すことで、タイムの出るクルマを作り上げる必要がありました。富士でのテストも含めて、キーとなる方向性を見極められたことが収穫です。走行を重ねるごとにマシンへの不安感がなくなり、熟成も進んでいます。ただ、シェイクダウンが良いからと言ってレースで好結果が得られるとは限りません。気を引き締めて開幕戦に挑みます。



Driver: 山野直也

昨年11月のMX-5 CUPカー試乗会以来の走行だったのですが、参戦マシンの状態は良かったです。30分の走行でセットアップも出来ましたし、特性も理解できたつもりです。MX-5 CUPカーの特徴はドライバーのコントロール領域が広いことで、ドライバーのテクニックによる純粋な勝負が期待できます。決勝レースは45分間なので、コンマ1秒の差が最終的には大きなギャップに繋がります。いかにミスなく走ることで、速いマシンを作り上げるのがキーポイントになると感じています。

Engineer: 山崎 登

シェイクダウンテストは、まずはマシンがしっかりと動くかの確認が大事だったのですが、問題なく走行できました。加えて、セットアップも想定以上に進ませられたので収穫はありました。最後の走行枠ではニュータイヤのテストもでき、開幕前の状態としては順調にプログラムを消化できたと感じています。

